

校長室だより～和光高校今昔 第29号 H26.11.21

埼玉県立和光高等学校 校長 村田 進

必修クラブの時代？

かつて「必修クラブ」という「授業」があった。昭和45年の高等学校教育課程実施要領改訂にもなあって、あらたに設けられた授業であったが再改定を待たずにフェードアウトしていった学校は少なくない。和光高校では開校2年目に当たる昭和48年度の教育課程表からこの存在を確認することができる。改定試行期間に相当する当初の数年間、部活動とほぼ同意の内容で実施されていたようだ。すなわち、部＝クラブであり、顧問も部員（クラブ員）も一致していた。具体的に言えばある曜日は、1時間早く部活動が開始されると考えれば分かり易い。このような感じで行われていた「必修クラブ」であったが、昭和55年あたりからその本来の意義に近づく内容に進化してきた。この年の学校要覧では次のように示されている。

昭和55年度必修クラブ一覧								
クラブ	顧問	部員数	クラブ	顧問	部員数	クラブ	顧問	部員数
バレー男	高橋	24	料理	木村・重田	42	英仏比較研	岡野	14
バレー女	堀江	30	茶道	関根英	15	新聞	小泉	11
卓球男	佐藤	30	百人一首	山田	39	合唱	梶田	13
卓球女	加藤・藤井	31	園芸	田中	20	手芸	大島	36
テニス男	新井	26	美術	吉田尚	22	ゲーム	酒井	37
テニス女	榛葉	43	工作	横溝・前田	43	トランプ	桜井・西見	51
バスケット男	村田	31	器楽	平井	18	鉄道	外沢	22
バスケット女	石堂	26	自動車	須藤	37	七宝焼き	横山	23
ソフト女	井上	23	計算機	丸山	24	映画	森沢・山口	41
ハンドボール男	仲尾	19	自然科学講読	細見	10	探鳥	榎本	19
ハンドボール女	吉田道	19	創作風	榊原・斯波	41	トレース	鎌田	12
バドミントン	齋藤朝	36	楽しい数学	藤方	28	写真	伏見	19
女子サッカー	浜名	21	将棋	関根一・滝	51			
剣道	大西	17	囲碁	小原	24			
スキー	岸	13	読書	筒井・小田	55		合計	1177

まず「全校生徒1177人が必ずどこかのクラブに属す」という今では考えられないような規模の条件を充たす必要があった。場所と指導者の問題については内容を絡めてツッコミ処満載である。この年の4月のある日、ある時間に生徒たちは一斉に入部（クラブ）届を持参し指定の部屋に申し込みに行ったと記憶している。それぞれのクラブには定員があり早い者勝ちか抽選かで入部が認められたはずだ。ちなみに部活動とのしがらみは一切なかったはずだ。生徒たちは自由に好きな種目あるいは先生を選ぶことができたのだ。



昭和55年度 職員集合写真

それにしても体育館の割り当てには苦心した。バレーとバスケットは当時あった外コートでも活動していた。果たしてスキーはどこで何をしていたのだろうかという疑問も残る。そもそもこの時代全盛を誇っていたラグビーとサッカーが見当たらない。吉田先生も浜名先生も女子のクラブを持っている。その意味で部活の顧問と一致しているのは、男バレ・女子テニス・男ハンド・剣道くらいだ。

逆に先生方の趣味や特技も窺い知れて興味深いともいえる。例えば「自動車クラブ」だが、顧問の須藤先生が自分の車のボンネットを開き、興味津々の生徒達にエンジンをかけて説明していた様子が思い出される。吉田先生や浜名先生の下には運動部の女子やファンクラブ？の生徒が集まり男子以上の熱気でボールを追いかけていた。丸山先生の「計算機クラブ」はもちろん今で言うパソコンだが、その言葉自体が定着する前の時代であったことも忍ばれて興味深い。「ゲームクラブ」で購入した当時一大ブームを起こしたオセロはいまだに学校のロッカーに残されている。

平成元年の教育課程の改定にともない必修クラブは部活動に統合される形で自然に消えてしまうことになるが、週五日制施行（平成4年）あるいは「ゆとり教育」以前ののどかな時代の話である。



昭和55年度 7期生集合写真（卒業アルバムより）